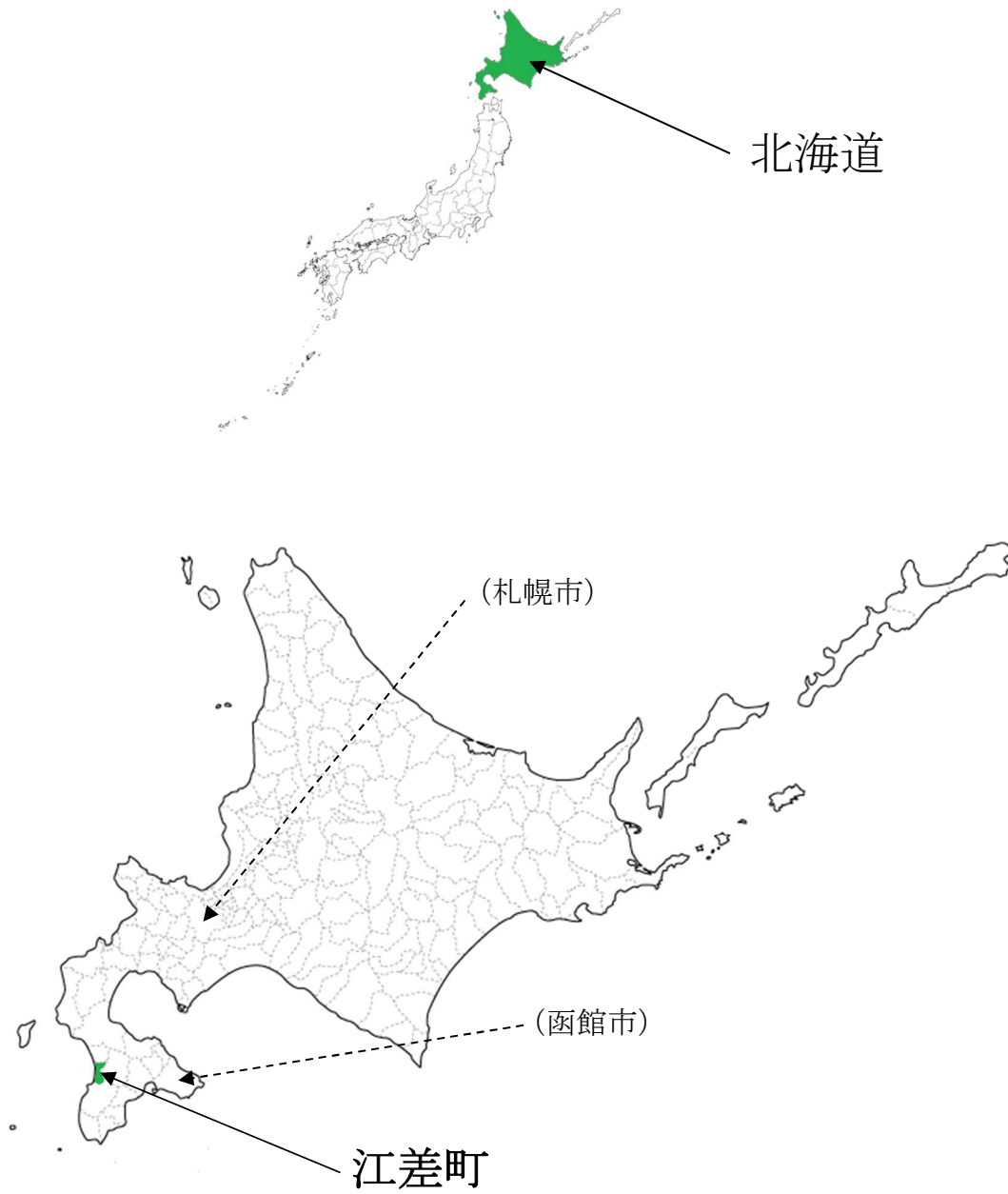


① 申請者	江差町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
江差の五月は江戸にもない ニシンの繁栄が息づく町ー			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻屋根の建物が建ち並び、 暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられている。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえる。</p> <p>この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどであった。</p> <p>ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいている。</p>			
			
ニシンによる繁栄が息づく江差の町並み		ニシンを用いた食文化	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	江差町教育委員会 社会教育課 宮原浩		
電 話	0139-52-1047	FAX	0139-52-0234
E-mail	hiroshi.miyahara@town.hiyama-esashi.lg.jp		
住 所	〒043-8560 北海道檜山郡江差町字中歌町 193-1		

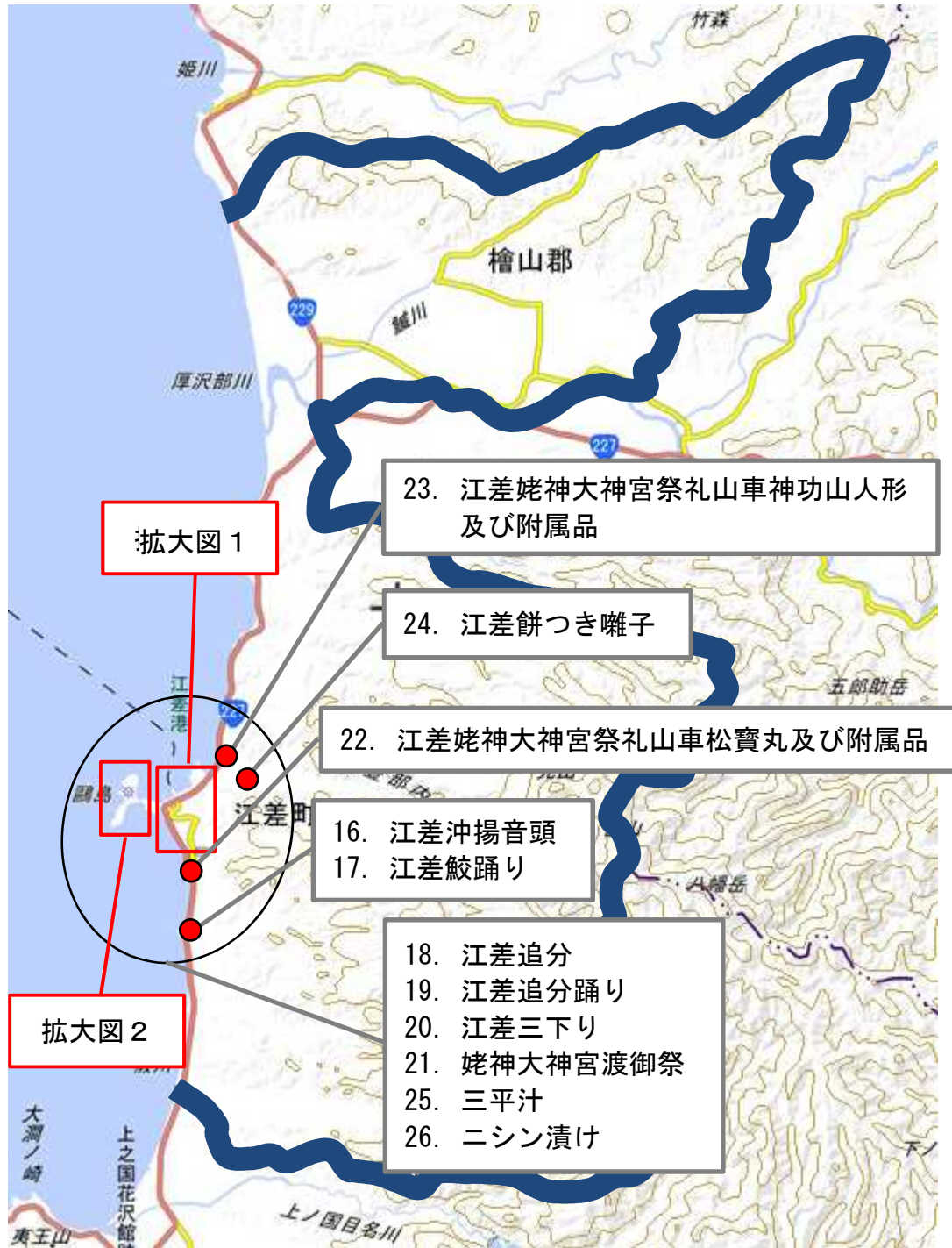
市町村の位置図（地図等）



## 構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す

（様式 3 - 1 の番号に対応させること）



出展：国土地理院ウェブサイト (<http://www.gsi.go.jp/>)



■拡大図 1



出展：国土地理院ウェブサイト (<http://www.gsi.go.jp/>)

## ■ 拡大図 2



出展：国土地理院ウェブサイト (<http://www.gsi.go.jp/>)

※複数ページにわたっても可



## ストーリー

## 1. 江差テイスト

江差町は北海道南西部に位置し、日本海に面しています。

海岸線に沿った段丘の下側には、切妻屋根の建物が建ち並ぶ町並みが伸び、それらの建物の暖簾・看板・壁には、簡単な記号を組み合わせさせて表現される屋号が掲げられています。その読み方を考えながら散策すると町並み歩きも一層楽しむことができます。

町並みから海側へ降る坂道の小路に入ると、建物が土地の傾斜に沿って階段状に下がって、基礎の石垣も建物ごとに段差が付いていることがわかります。建物は木造のように見えますが実は漆喰壁の土蔵造りで、冬の激しい風雪から漆喰壁を守るために、建物全体を組み合わせた板で覆っています。深い青色をした石組みの基礎も見事です。

段丘に登り振り返ってみれば、赤や黒の瓦屋根の向こうにカモメが羽を広げた形をしているかもめ島を望むことができ、その眺望に感動します。

これらのテイストは、江差の地形とニシンの産業が創り出したもので、江戸を凌ぐともいわれた繁栄を伝えるものなのです。

## 2. 江差発展の基、ニシン漁と交易

江戸時代前期の江差は、海岸沿いに小さな村が連なる人口も少ない所でしたが、ニシンがやってきたことによって繁栄していきます。

1670年ごろの様子を記した『津軽一統史』には、ニシン漁場の江差には、道内だけでなく東北地方からも漁民や商人が集まってきている、と記されています。

江戸時代に江差を治めていた松前藩は、豊かなニシン漁場であることや、江差沖に浮かぶかもめ島が天然の防波堤として使えることから、江差をニシン加工品などを扱う藩指定の交易港としました。海岸段丘の下側に這うように伸びている、暮らすには不向きな狭い傾斜地に町並みが作られていったのは、ニシンをメインにして作られたからなのです。

ニシン漁と交易がますます隆盛になっていくと、近江国（滋賀県）や北陸地方から多くの商人が江差に渡ってきました。今でも、町並みに面した商家の店や、その奥に続くニシン蔵を見ることができますが、それらは本州から渡ってきた商人が遺した建物です。

もっとも海側にある蔵は「ハネダシ」と呼ばれ、その外壁にはかもめ島に停泊した交易船からも取引先の商家がわかるように、大きな屋号が掲げられました。この屋号は、商家の暖簾や漁家のニシン漁具など様々な道具にも記されました。

建物の基礎や社寺の参道などには、雨に濡れるとより深い青みを増



江差市街地とかもめ島



切妻屋根が建ち並ぶ町並み



傾斜地に階段状に下がっている蔵と小路



かもめ島にある江戸時代の交易港跡



壁に掲げられた屋号

す、越前国<sup>えちぜんのくに</sup>（福井県）で産出された<sup>しめぐだにいし</sup>笏谷石が用いられています。このような石材は、近在で代替品をまかなうこともできましたが、経済的に発展していた当時の江差では自前で調達するのではなく、商品として購入するほうが手取り早かったのです。

また、建物の屋根には、若狭国<sup>わかさのくに</sup>（福井県）・能登国<sup>のとのくに</sup>（石川県）・石見国<sup>いわみのくに</sup>（島根県）などで作られた様々な<sup>かわら</sup>瓦が葺かれていて、段丘の上から見ると赤や黒など様々な色彩の瓦屋根を楽しむことができます。

町並みの所々には、海側へ出るための小路が伸びています。ニシン漁は早春に行われましたが、江差の浜にニシンがやってくると、近隣から漁民がやってきて漁をしますが、その時には町並みに暮らす商家の人たちもこの小路を通して浜へ出て、漁を手伝いました。

### 3. 発展による文化の展開と伝承

ニシンの漁と交易で繁栄した江差には、ニシン漁が行われるようになった由来を語り継ぐ伝説や、ニシン漁に関係する芸能など、この地で生まれた文化が伝わっています。

また、交易船に乗っていた人達によって伝えられた唄が江差の情景に合わせた歌詞に変わったり、本州の食文化が江差の産物を用いたものになったりと、交易や移住者によってもたらされた各地の文化がこの土地の風土に合わせた形で伝承もされています。

また、繁栄によって豪華になっていった祭礼や年中行事なども、江戸時代から現在にまで連綿と伝承されています。

### 4. ニシンの繁栄が色濃く残る町、江差

このように、江差はニシン漁とその交易によって繁栄をしました。

江戸時代後期に江差を訪れた古川古松軒<sup>ふるかわこしょうけん</sup>は、江差の町並みは端までも貧家がなく、浜辺にも蔵が建ち並んでいる、江戸を出てから建物・人物・言語など江差ほど良い場所はない、と『東遊雑記』<sup>とうゆうざっき</sup>に記しています。

ニシン漁が終わり、ニシン加工品を求めて各地から交易船や人々が江差港にやってくる旧暦5月ごろの賑わいは、後に「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでした。

町並みを歩き、文化に触れ、交易船の停泊港でもあったかもめ島を散策して対岸に広がる江差の町を臨めば、今でも色濃く残るニシンによる繁栄を体感することができます。



深い青みが特徴の笏谷石



様々な色彩の屋根瓦



ニシン漁の様子を伝える  
江差沖揚音頭



繁栄により豪華に  
なっていた祭礼



ニシンを材料とした食

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	えさし まちな 江差の町並み	未指定	海岸段丘の下側に伸びている町並み。 津花岬を角としてL字型に展開している。 ニシン交易を担った商家が切妻屋根を揃えて建ち並んでいる。 建物の暖簾・看板・壁には家ごとの屋号が掲げられている。	
2	きゅうなかむらけじゅうたく 旧中村家住宅	国重文	おうみ 近江商人のおおはし 大橋家が設けた出店で、後に中村家へ譲られた。 通りに面した主屋だけが店と住居で、残りの3棟は交易品などを保管する漆喰塗りの蔵。 屋根には灰色の若狭瓦が葺かれている。	
3	えさしうばがみちようよこやまけ 江差姥神町横山家	道有民	のとのくに 能登国(石川県)から移り住んできた横山家が構えた店。 通りに面した主屋以外は、交易品などを保管する蔵が一行に立ち並んでいる。	
4	きゅうひやまにしぐんやくしよちょうしゃ 旧檜山爾志郡役所庁舎	道有形	明治20年(1887)に建てられた北海道庁の出先機関。 洋風建築であるが、基礎には深い青色の笏谷石が、屋根には黒い能登瓦が用いられていて、ニシン交易の影響がうかがうことができる。	
5	かもめ じま かもめ島	未指定	江差市街地の沖に浮かぶ南北に細長い島。 外洋からの風濤を防ぐ天然の防波堤であり、交易発展の基となった。	
6	おりいでんせつ 折居伝説とその資料	未指定	江差にニシンがやってくるようになった由来を語る「折居伝説」を示す古文書や絵画資料。	



7	へいし いわ 瓶子岩	未指定	「折居伝説」で語られる岩。神から託された瓶子が岩と化したもの。	
8	うばがみだいじんぐう 姥神大神宮	未指定	「折居伝説」でニシンをまねいた姥が祀っていた神像を、江差の人々が皆で祀るようになったとの由緒を持つ神社。	
9	きたまえぶねけいせんはしらおよ とうあと 北前船係船柱及び同跡	町史跡	かもめ島の北東にあるニシン交易船の係船跡。	
10	いつくしまじんじゃ 巖島神社	未指定	かもめ島に係船したニシン交易船の乗員たちが、航海安全を祈願した神社。 慶長 20 年 (1615) 創建。	
11	いつくしまじんじゃ いしどりい 巖島神社の石鳥居	未指定	加賀国橋立 (石川県加賀市) の船頭たちが寄進をした鳥居。 天保 9 年 (1838) の建立。	
12	いつくしまじんじゃ ちょうずいし 巖島神社の手水石	未指定	江差商人の村上家と取引をしていたニシン交易船関係者が寄進をした手水石。 安政 6 年 (1859) 年の建造。	
13	かもめ島 じま かいだんあと かもめ島の階段跡	未指定	かもめ島の島上にある巖島神社へ参るための階段。 ニシン交易船の乗員が航海安全を願うため、江戸時代から設けられていた。	
14	えさししょうにん えんせきあと 江差商人の宴席跡	未指定	かもめ島の西側に広がる「千畳敷」に掘られた 8 つの柱穴。 ニシン交易で利益を上げた江差商人は、この地に仮小屋を建てて宴を催していた。	
15	ニシン しょう 漁 と ニシン こうえき 交易 の古文書	未指定	江差のニシン漁とニシン交易について記録した古文書資料。	
16	えさしおきあげおんど 江差沖揚音頭	道無民	江差繁栄の基となったニシン漁の様を現在に伝える民俗芸能。	

17	えさしきめおど 江差鮫踊り	町無民	漁民がニシン漁の邪魔をするサメを 駆除していたが、その霊を慰めるた め行われたという民俗芸能。	
18	えさしおいわけ 江差追分	道無民	ニシン交易で栄えた江差へやってき た船乗りたちによって伝えられたと いう民謡。	
19	えさしおいわけおど 江差追分踊り	町無民	江戸時代末、江戸から興行でやってき た歌舞伎役者によって振付けられた という、「江差追分」に合わせて踊ら れる芸能。	
20	えさしさんさが 江差三下り	道無民	ニシン交易で栄えた江差へやってき た船乗りによって伝えられたという 民謡。	
21	うばがみだいじんぐうとぎよさい 姥神大神宮渡御祭	町無民	江戸時代から伝わる姥神大神宮の祭 礼。	
22	えさしうばがみだいじんぐうさいれい や ま 江差姥神大神宮祭礼山車 まつほうまるおよ ふぞくひん 松寶丸及び附属品	道有民	うばがみだいじんぐうとぎよさい 姥神大神宮渡御祭に出される山車。 弘化2年(1845)に作られ、交易船を かたどっている。	
23	えさしうばがみだいじんぐうさいれい や ま 江差姥神大神宮祭礼山車 じんこうざんにんぎょうおよ ふぞくひん 神功山人形及び附属品	道有民	うばがみだいじんぐうとぎよさい 姥神大神宮渡御祭に出される山車に 載る人形。 宝暦年間(1751~1764)に作られたと され、神功皇后をかたどっている。	
24	えさしもち 江差餅つき囃子	道無民	ニシン交易で繁栄していた商家で行 われていた年末の餅つきの様子を伝 える民俗芸能。	
25	さんべいじろ 三平汁	未指定	豊富に獲れたニシンを用いた郷土料 理。塩漬けや糠漬けにしたニシンを 様々な野菜とともに煮たもの。	
26	ニシン漬け	未指定	豊富に獲れたニシンを用いた郷土料 理。身欠きニシンと様々な野菜を とともに漬けたもの。	

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、  
県有形、市無形等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明になら

ないように注意すること)。

- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。



## 構成文化財の写真一覧

1. 江差の町並み



4. 旧檜山爾志郡役所庁舎



2. 旧中村家住宅



5. かもめ島



3. 江差姥神町横山家



6. 折居伝説とその資料



7. 瓶子岩



10. 巖島神社



8. 姥神大神宮



11. 巖島神社の石鳥居



9. 北前船係船柱及び同跡



12. 巖島神社の手水石





13. かもめ島の階段跡



16. 江差沖揚音頭



14. 江差商人の宴席跡



17. 江差鮫踊り



15. ニシン漁とニシン交易の古文書



18. 江差追分





19. 江差追分踊り



22. 江差姥神大神宮祭礼山車松寶丸及び  
附属品



20. 江差三下り



23. 江差姥神大神宮祭礼山車神功山人形  
及び附属品



21. 姥神大神宮渡御祭



24. 江差餅つき囃子



25. 三平汁



26. ニシン漬け



※複数ページにわたっても可